

平成22年度(第55回)全国私立中学高等学校

私学経営研修会

【報告書】

主催 財団法人日本私学教育研究所

後援 宮城県、仙台市、宮城県私立中学高等学校連合会、日本私立中学高等学校連合会

***** 研究のねらい *****

政策転換期を拓く私学経営と教育

《『私学教育』を【特色教育】【生徒募集】【教員育成】【学校経営管理】【高校無償化】の5つの視点から考察する》

昨夏の政権交代に伴い、与党は政権公約の「高校授業料実質無償化」施策を具現化、公立高校生は「授業料無償化」、国・私立高校生には「高等学校等就学支援金」制度が創設・財政措置が行われ、4月から私立に通う高校生に対して年間約12万円(保護者の所得に応じて一定額の加算有)の就学支援金が支給されることとなった。

新制度の受け止め方は千差万別ではあるが、私立高校への進学を望む生徒・保護者にとって自由な学校選択の一助となることが期待される。他方、この措置によって授業料全額無償となった公立に比して、私立は一定額の負担軽減にとどまり、教育費負担の公私間格差という抜本的な問題は解消されてはいない。長らく経済不況の影響下では公立志向の強まりも懸念され、地域差はあっても私学が生徒募集に苦慮されたことは否めない。

高校無償化政策は、学校法人に就学支援金支給に係る煩雑な事務や人員加配・人件費増等、事務処理・経費面で大きな負担を課した。助成対象の授業料を含む学納金のあり方等、経営・管理上の課題も派生している。

また、次の政策課題として、教員免許更新制見直し、教員養成課程の充実等、資質向上のための教員養成改革の検討が進められている。真に教育現場の声を重視・反映した制度となるようその動向を注視しつつ、時の政権に左右されることのない、受益者と学校現場に資する教育施策の実現が期待されることである。

「人と知恵」を生み育てるための教育施策がもたらした新たな潮流の狭間で、高校教育を希望する生徒・保護者を惹きつけ、共感を得るべく、教育内容・教職員資質の充実向上を図り、健全かつ効率の良い学校経営・管理に努め、「選ばれる学校」となることが、いま私学に求められている。本研修会が、われわれが直面する諸課題と対応策を検証・考察し、参加者が自校の教育活動・学校管理へと活かす成果を得る機会となるよう、上記《5つの視点》を踏まえ、報告・講演・意見・情報交換を行う。

◆ 会 期 平成22年6月3日(木)～6月4日(金)の2日間

◆ 会 場 仙台ガーデンパレス 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-5 電話022(299)6211

◆ 参加人員 143名(募集人員150名)

◆ 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、事務長またはこれに準ずる管理職の方

◆ 日 程

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		30			30	30	30		30		30
6月3日(木)		受付	開会式	講演	基調講演	昼食	報告Ⅰ	パネル・ディスカッション			教育懇談会
6月4日(金)			報告Ⅱ	全体会(意見交換会)	総括						

◆ 講師・指導員(順不同)

山浦 玄嗣 山浦医院 理事長 / 医学博士
 大山健太郎 アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役社長
 吉田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長
 山中 幸平 学校法人山中学園 理事長
 中川 武夫 淑徳楽鴨中学高等学校 校長

◆ 専門委員・指導員(順不同)

實吉 幹夫 東京女子学園中学高等学校 理事長・校長
 松良 千廣 常盤木学園高等学校 理事長・校長
 鈴木 康之 水戸女子高等学校 理事長・校長
 長塚 篤夫 順天中学高等学校 校長
 木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 校長
 鈴木 秀一 財団法人日本私学教育研究所 事務局長

◆ 事務担当

川本 芳久 財団法人日本私学教育研究所 主幹
 西沢 紀子 財団法人日本私学教育研究所 主査

◆ 日程・プログラム

第1日 6月3日(木)

会場：仙台ガーデンパレス2階「鳳凰」
 〈司会・講師等紹介〉財団法人日本私学教育研究所 事務局長 鈴木 秀一

09:00	◇ 受付
09:30	◇ 開会式 1. 開会 2. 主催者挨拶 財団法人日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋 3. 来賓祝辞 宮城県知事 村井 嘉浩 様(代理出席) 宮城県副知事 三浦 秀一 様 仙台市長 奥山恵美子 様(代理出席) 仙台市教育局长次長 野澤 令照 様 4. 主催者等紹介 5. 開催趣意挨拶 宮城県私立中学高等学校連合会 会長 松良 千廣 6. 研修会運営方針説明 財団法人日本私学教育研究所 私学経営専門委員長 實吉 幹夫 7. 閉会
10:00	◇ 講演 演題 「私学情勢について」 講師 日本私立中学高等学校連合会 会長 吉田 晋 財団法人日本私学教育研究所 理事長
11:00	◇ 基調講演 演題 「人生の目的：聖書に見る『永遠の命』とは？」 講師 山浦因院 理事長・医学博士 山浦 玄嗣
12:30	◇ 昼食 (※受付にて山浦勲師著書販売)
13:30	◇ 報告Ⅰ テーマ 「政策転換期の教育制度改革と私学の対応」 報告者 日本私立中学高等学校連合会 教育制度委員長 實吉 幹夫
14:30	◇ パネル・ディスカッション テーマ 「政策転換期を拓く私学経営と教育」 パネリスト アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役社長 大山健太郎 パネリスト 常盤木学園高等学校 理事長・校長 松良 千廣 パネリスト 順天中学高等学校 校長 長塚 篤夫 コーディネーター 水戸女子高等学校 理事長・校長 鈴木 康之
17:00	
17:30	◇ 教育懇談会〈会場：2階「鳳凰」〉 1. 開会 2. 主催者挨拶 財団法人日本私学教育研究所 所長 中川 武夫 3. 来賓挨拶 宮城県総務部私学文書課長 正木 毅 様 4. 乾杯 財団法人日本私学教育研究所 副理事長 山中 幸平 5. 懇談 6. アトラクション「すずめ踊り」 夢祭車舞樂、六郷すずめっこ 7. 次年度開催代表挨拶 兵庫県私立中学高等学校連合会 副理事長 熊見 一郎 8. 閉会
19:00	

第2日 6月4日(金)

会場：仙台ガーデンパレス2階「鳳凰」
 〈司会・講師等紹介〉財団法人日本私学教育研究所 事務局長 鈴木 秀一

09:30	◇ 報告Ⅱ テーマ 「私立学校のシンクタンクを目指して―日私教研の新たな挑戦―」 報告者 財団法人日本私学教育研究所 所長 中川 武夫
10:00	◇ 全体会 (意見交換会) テーマ 「政策転換期を拓く私学経営と教育」 コーディネーター 東京女子学園中学高等学校 理事長・校長 實吉 幹夫 常盤木学園高等学校 理事長・校長 松良 千廣 水戸女子高等学校 理事長・校長 鈴木 康之 順天中学高等学校 校長 長塚 篤夫 司会 東京成徳大学中学高等学校 校長 木内 秀樹
11:30	◇ 総括 財団法人日本私学教育研究所 私学経営専門委員長 實吉 幹夫
12:00	〈控室 …5階〉「多賀」(来賓・講師・専門委員)、「広瀬」(事務局)

平成 22 年度私学経営研修会

【報告】

6月3日・4日に宮城県・仙台市で開催
全国から143名の理事長・校長らが出席
政策転換期を拓く明日の私学経営と教育のあり方を研究

財団法人日本私学教育研究所（吉田晋理事長、中川武夫所長）は、6月3・4の両日、美しい緑が見頃を迎えた杜の都・仙台市の仙台ガーデンパレスで「平成22年度私立中学高等学校私学経営研修会」を開催した。今年で55回となる本研修会は「政策転換期を拓く私学経営と教育」を研究のねらいに掲げ、全国から143人の私立中学高校の理事長、校長らが参加、特色教育、生徒募集、教員育成、学校経営管理、高校無償化の5つの視点から、講演や報告、パネル討議等を通じて今後の私学教育の在り方等について研究・協議した。

開会式は、吉田晋理事長による挨拶で幕をあげた。吉田理事長は、研究所が5月に市ヶ谷・私学会館近くへ移転し、都道府県私学協会加盟校にとってより役立つことを目指して本年度衣替えした一般研修の先陣をきって開催されるこの私学経営研修会に北海道から沖縄まで140名を超える参加者がこの地に参集されたことに謝意を表した。続いて来賓として公務のため出席のかなわぬ村井嘉弘・宮城県知事に代わり三浦秀一・県副知事を、また奥山恵美子仙台市長に代わり野澤令昭・市教育庁次長を迎え、両首長の祝辞が披露された。開催県を代表して松良千廣・宮城県私立中学高等学校連合会会長が歓迎の挨拶を行った。吉田晋・中高連会長（研究所理事長）は「私学情勢について一政権交代と私学振興」と題する講演で新政権の新たな政策への対応等について中央情勢を報告した。続いて、開催地に縁のある学識経験者である山浦玄嗣・山浦医院理事長による記念講演「人生の目的・聖書に見る『永遠の命』とは？」が行われた。午後からは、實吉幹夫・中高連教育制度委員長が、「政策転換期の教育制度改革と私学の対応」と題して、主に文部科学省による教育制度改革の概要や中高連の対応状況等について報告した。さらに研究のねらいをテーマにパネル・ディスカッションが行われた。夕刻には教育懇談会が催され、来賓の正木毅宮城県総務部私学文書課長による挨拶、地元の「すずめ踊り」が披露され、参加者が交流を深める場となった。懇談会を締め括り、次年度開催県代表として熊見一郎・兵庫県私立中学高等学校連合会副理事長が挨拶、次回研修会は兵庫県神戸市で来年6月2日・3日に開催されることが紹介された。

2日目には中川武夫・研究所所長が「私立学校のシンクタンクを目指して一日私教研の新たな挑戦」をテーマに、研修事業等の改革の取り組み状況を報告した。2日間にわたる研修を締めくくるプログラムとして、参加者全員による意見交換会が開かれ、木内秀樹・私学経営専門委員による司会のもと、4名の専門委員らがコメンテーターとなり、参加者との質疑・意見と情報交換が行われた。最後に實吉幹夫私学経営専門委員長が本研修会を振り返って総括し、閉会した。

**次回研修会(平成23年度)は、兵庫県・神戸市で、平成23年6月2日(木)・3日(金)に開催
～会場は ANA クラウンプラザホテル神戸～**



開会式で挨拶する吉田晋・日私教研理事長



三浦秀一・宮城県副知事



野澤令昭・仙台市教育庁次長

6月3日(木)

【講演】

**「私学情勢について — 政権交代と私学振興」
吉田 晋中高連会長が新政権の政策を検証
中央と各地の動向を語り、今後の改善要望を提言**

昨夏の政権交代で我々は私学振興の為に自民党中心で対応していた従来とは全く違った方向で動かざるを得なくなった。ここで新政権の教育政策の経緯と私学の対応について再検証してみたい。民主党を柱とする連立政権は自民党による平成22年度予算概算要求組替えや事業仕分け等に着手した。高校無償化の発端となった2007年民主党マニフェスト時点では私立高校は対象外であったが、私学に理解のある民主党文教議員への中高連の働きかけ等が功を奏し、公立高校の授業料無償化とともに「高等学校等就学支援金」制度が本年4月に創設された。

しかし22年度予算では、私立学校への機関補助である私立高校等経常費助成費補助金が9年振りに1千億円の大台を割り込み、財源不足を理由に私立学校耐震補強補助金削減、就学支援金加算対象となる所得上限引下げ等の影響も生じた。高校就学支援金（個人補助）は学校の収入増に直結するものではなく、私学への補助が手厚くなったとの意識が私学助成（機関補助）に影響を及ぼすことのないよう留意すべきだ。就学支援金に係る私立高校側に生じた新たな事務と経費負担、未だ私立高校生のみ課される申請主義等、公立中心の視点で性急に作られた制度ゆえの問題も山積する。元々の公私間格差は新制度でゼロ対無限大となった。生徒募集への影響はどうか。今春の私立高校入試状況は悪くはなかったが、真の正念場は無償化が周知されて迎える来春以降入試である。経済的負担の過多がある中で生徒収容における私学の競争力低下は否めず、私立中高校の存在意義の再検討が今後必要だ。

高校就学支援金制度に関しては、保護者の教育費負担軽減という基本的方向性は否定しない。しかし地方自治体によって上乗せ支援策に違いが生じて都道府県間の格差が拡大したこと、上乗せ措置と共に授業料抑制等の“締め付け”が見られる等その内容と実施方法に改善の余地がある。私学の改善要望事項として、①就学支援金制度維持運営のための独自の財源を確立し、経常費助成と就学支援金の両方を確保する、②就学支援金を私立高校についても実質的無償化の水準に引き上げる為に公私間格差是正に努める、③確実な計画実施野のための工程表を示す、④上乗せ補助の都道府県間格差を埋める為に国による就学支援金の内容を充実させる、⑤就学支援金を公立と同様に個人補助でなく機関補助にすることで学校の事務負担を減らす。生徒による申請主義を止め経常費の授業料部分とする。⑥国や地方の財政状況と教育の現状との調和点を模索し、公立・私立高校共に対象者の所得制限を設けて低所得者層への支援を充実する。保護者の教育費負担軽減の観点からバラマキは止め、私立義務教育費負担軽減を優先する一ことが挙げられる。生徒の住む地域で上乗せ支援策が異なるのは学習環境整備の観点から問題だ。高校無償化法附帯決議規定の3年後を待たず速やかに見直しを進めるよう私学としてあらゆる機会に関係方面へ訴えたい。

新たな動きとして、地域主権戦略会議の一括交付金構想対象の“ひも付き補助金”に高校以下私学助成が含まれるとも聞く。国が責任を持つべき方針が政権毎に変わるのは如何なものか。民主党はマニフェストで教員免許更新制廃止・教員養成6年制を強く唱えていたが、最近は一トーンダウンし、本日で中教審に諮問される予定だ。生徒・学生に関わる教育は政争の具とすべきでない。公立・私立を問わず生徒に自由な学校選択の自由を保障するのが政治ではないか。「21世紀を担う子供たちに満足いく教育を提供できるのは私学だ。教育は私学に任せておけば良い」と声高に言える社会に変えていく必要がある。その為にも1校1校が大切だと皆に伝えたい。独自の建学の精神を持ち特色教育を行う私学が潰れないよう地域と全国が手を携えた私学の底上げが肝要だ。教育の論理抜きに私学経営は成り立たない。さらに良い教育を使命に各私学の力を借り中央と地方が協力し一層の私学振興を図りたい。



吉田晋・中高連会長による講演



山浦玄嗣氏による基調講演



報告I(實吉幹夫・中高連教育制度委員長)

【基調講演】

山浦 玄嗣 (山浦医院理事長・医学博士) 「人生の目的：聖書に見る「永遠の命」とは？」

—人の善悪を言わず相手を大切に信頼すれば、人は幸せになる—

この掟は、生き生きと実りある人生を作り上げるよう子供たちを導く教育の原点だ

ケセン語とは故郷・岩手県気仙地方の方言を命名したものだ。イエス・キリストは「ヤソ」と揶揄され生粋のカトリック信者は苛められた。ヤソ（イエス）様の心を伝えたいとケセンの友達や皆に解る聖書を東北の方言に字を当てて作るのが少年時代の夢であった。医者となり錆びたケセンの言葉で文章を書く夢を思い出し、35歳から10年で文法体系本の「ケセン語入門」を作り上げ、60歳で「ケセン語大辞典」が完成、四半世紀かけて聖書をケセン語で書く為のペンを手にした。しかし福音書（キリスト言行録）のケセン語訳を始めると一行も訳せない。「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」—ダビデはイエスを遡り1000年前、アブラハムは1700年前に属し、イエスが彼らの子の筈がない。「このように人々はイエスにつまずいた」の意味は何か。親しんだ聖書が解らぬことばかりで困った時、友人でカトリック信者・聖書学者の医師から「原典から訳すように」と送られたギリシャ語の原典聖書と辞書に奮起し「ギリシャ語だけ眺める」「聖書独特の漢語ではなくカナで書ける言葉を使う」を翻訳の二大方針に据えた。ケセンの人にとって方言とは耳から聞くものであって、文字は見たり書いたりするものではない。言葉が人の心に響かなければ、真にその人へと届いたことにはならないのだ。

「愛」「天国」という言葉はケセン語訳聖書にない。故郷では「愛する」を「惚れた」と言う。上から下、強者から弱者への自己本位的感情の「愛する」を「大事にする」「大切にすると訳した。「汝の敵を愛せよ」とは無茶な話だが「敵に塩を送る」とあるように「大事にする」のは好き嫌いや上下関係を問わない。「ろくでもない人でも大事にすれば神様はお前を大事にして下さる」。ギリシャ語のテレオスには「完全」に加え「出来上がった」の意味があり、聖書の「神様のように完全になれ」は「神様は誠に出来たお方だ。お前も神様のように出来た者になれ」と訳せば心にストンと入る。「腹の中で怒っても良いからいいかにして相手を大事にしたかが人間に問われる最も大切なこと—それが本当の幸せに辿り着くことができる一番大切な方法だ」とイエスは言う。

「人生の目的とは何か？—それは永遠の命に入ることだ」と聖書にはある。「永遠の命」（ギリシャ語でゾーエー・アイオーニオス）とは何か？人間の「命」とは、生まれてから死ぬ迄続く有限の儂いものだ。「永遠」にはギリシャ語で「始めも終わりもない」「いつでも」という意味があり、「永遠の命」は形容矛盾である。それでは「永遠の命」とは現世でなく来世のものか。観たこともない天国は説明不可能だ。「永遠の命」に入ることがイエスの求める項目をクリアし達する最後の道、人生の目的であるならば、「永遠の命」とは何か？「命」は「人間を生かすための根源的な力」を意味するが、英語の「ライフ」には「命」の他に「生活」「暮らし」という意味がある。ゾーエーとは「命」というよりも「愉快で元気に溢れてピチピチして暮らす」という意味だ。「永遠」を表すアイオーニオスは「一生涯」の意味がある。ゾーエー・アイオーニオス「永遠の命」とは、「一生の間、いつでも、元気

で明るくピチピチと力に溢れて生きること」と言える。イエスはガリラヤ地方の訛りで人々に語り、その教えが互いの心の響き合うことがなければ2千年を経て受け継がれなかったろう。「世の終わり」—終末思想には暗いイメージがあるが、ギリシャ語のシンテレイアは「終わり」の他に「完成」「仕上がり」を意味する。死ぬ前に人は苦しみ、絶望感や難難に襲われ、本人も周囲も大変だが、辛い中で人は鍛えられ人のわかる立派な人格になる。その為の神様の道具になれば本望ではないか。「神の国は近づいた」とは時間的よりも空間的に近づくことを示す。「天の国」「神の国」は何処にあり、人はどうすれば「神の国」に近づき幸せになれるのか。「国」と訳されるギリシャ語のバシレイアには「支配」「統治」「取り仕切る」という意味があり、私は「神の国」ではなく「神様のお取り仕切り」と訳した。「神様のお取り仕切り」は人と人との間、人間関係にある。人が人を支配するから人は不幸になる。神は人間の幸せという凝縮した願いを込めて人間を創った。「人間の幸せは神様が直接お前たちを取り仕切って下さる。「神様のお取り仕切り」に身を委ねようではないか」イエスが伝えたいのは、「大切なのはいま元気にイキイキと喜びに溢れて生活し、明るく楽しく喜びに満ちていることだ。苦しくとも望みと神様への信頼を失ってはならない。何故ならそれは人生の仕上がりの時、人生の輝かしい完成の時なのだから」ということだ。人を幸せにする為の唯一の掟とは、互いに人の善悪を言わず、相手を徹底して大切にすることだ。意見の異なる相手を大切にすることの克服には信頼（ギリシャ語でピスティス）が欠かせない。神様を信頼すれば神様は必ず良いようにして下さるという力強いイエスのメッセージである。教育の原点は子供たちが生き生きと実りある人生を作り上げる人間になるよう導くことだ。私がケセン語訳聖書から学んだイエスの心は、必ずや教育の原点にもつながるだろう。

【報告 I】

「政策転換期の教育制度改革と私学の対応」

實吉 幹夫中高連教育制度委員長が

私立高校就学支援金、中教審等の制度改革への対応と課題を報告

フットワークの軽快な吉田晋先生が中高連会長・研究所理事長に就いてから両中央団体はさらに良い方向を目指している。中高連役員会報告事項等中央の情報各地私学協会・加盟校に行き届かない面を省み、昨年度より研究所の研修会を通して、私学対文部科学省の直近の動きを会員校に伝えるべく試みている。鈴木寛・文科副大臣は私立大学や出身高校等で情報の教鞭をとられた経歴もあって私学への理解が深く吉田会長はコンタクト・コミュニケーションが取りやすい。高校就学支援金制度創設に当たっては、国から学校に支援金が入る時期など事務制度設計に関する文科省会議に中高連役員らが参画し私学側の意見要望を具申してきた。中高連実施の就学支援金に関する都道府県私学協会アンケート結果では、従来の私立高校授業料軽減補助を廃止し新たな補助制度を立ち上げる所も多いが、都道府県毎に補助金額の手厚さ等に差が見られる等、新制度導入に伴い私学行政側の対応は変わって来ている。高校無償化法案・附帯決議、私立高校生の自署を求める誓約書紛いの申請書等について会長・副会長らと共に異を唱えた結果、申請書の様式修正・簡素化と保護者による代筆が認められた。吉田会長就任後は文科省との折衝事が増え、中高連が加盟校にも見える活動を進めていく方向に変わって来た。就学支援金は公立高校授業料相当の年額約12万円～約24万円、他方、私立高校授業料の全国平均年額は前年度35万円強でその他の学納金もある。授業料・奨学金設定に関して就学支援金の補助対象は授業料に限られる旨留意された。

中教審への対応としては、中高連として機会を捉えて意見書等を提出している。「児童・生徒の学習評価」については、中川研究所所長が中教審教育課程部会委員を務め、高校への観点別評価導入に前向きな同部会ワーキンググループに対し「絶対反対」との意見表明を行った。中教審キャリア教育・職業教育特別部会中間報告に対するヒアリングに出席し中高連教育制度委員長として私学側の意見を申し述べた。学校評価については、自己評価は義務規定、学校関係者評価は努力規定となっているが、「学校の第三者評価ガイドライン」は主に公立小中学校が対象で私立中高を代表して調査研究協力者会議で主張した通り、私学は建学の精神やその特性に基づく多様な教育を展開し学校選択で評価されている特性への配慮が序文に書き込まれている。この他、佐々木隆生北海道大学特任教授を長とする調査研究が先月「高大接続テスト(仮称)経過報告」をまとめた。清水哲雄中高連常任理事が私学委員として参画し、高大接続テスト導入を提言する方向で9月予定される最終報告の動向を注視したい。「教員の資質向上方策」に関しては、民主党が打ち出す教員養成課程6年制化は期間が長過ぎ教員志望者減が懸念される。鈴木副大臣は4年+αを提唱するも方向性は定まらず、教員養成策は私学の重要課題と認識する。中高連と研究所は私学が苦勞を強いられる施策があれば東京という地の利を活かし迅速に対応し私学の意見を主張していく所存であり、各私学協会や加盟校で困ったことがあれば寄せられたい。

【パネル・ディスカッション】

「政策転換期を拓く私学経営と教育」をテーマに

私学の教学・経営者のトップが【特色教育】【生徒募集】【教員育成】【学校経営管理】【高校無償化】の5つの観点から私学教育を考察、地元産業界のトップは経営管理・人材育成と教育を語る

☆パネリスト

大山 健太郎 アイリスオーヤマ株式会社

代表取締役社長

松良 千廣 常盤木学園高等学校

理事長・校長

長塚 篤夫 順天中学高等学校 校長

☆コーディネーター

鈴木 康之 水戸女子高等学校 理事長・校長



時代や人間の思考の方向性など見極めすることで課題が明確になり、特色化の方向が見えてくる

—【特色教育】【生徒募集】…長塚 篤夫 校長—

「教育の特色化」を図る時に何を考えるべきか—「パラダイムシフトによる特色化」を挙げたい。教育や学校の有り様は時代や人間の思考の枠組みと共にありその方向を捉えることで教育の特色化の方向性を考えられる。1つは「個別化・個性化」だ。個別化は価値の多様化を生み、多様な教育を私学に求めることにつながる。個別化・個性化時代の教育課題「生徒のアイデンティティ形成」の為に自己選択・決定・責任等「選択」重視の特色化は不可欠だ。コミュニケーション重視の時代に本校は中1~高3のLHRでグループコミュニケーションプログラムを組み、自立の為の共同体験として中1で学校宿泊施設年30泊を行う。皆が共同で一つのことを行い考えるのが特色として認知される時代が来た。「特色化」を図る具体策として「学習指導」「進路指導」「生活指導」の3つの教育活動が挙げられる。「学習指導」について。都内私立男子校では、楽曲の創作が系統学習と経験学習の2つを融合した高度な学力形成につながっている。探究科を設けた京都の市立高校では、経験的な探究学習を通じた系統的な知識を獲得する意欲的・冒険的な試み自体が個別化と共同化を意味する。国際標準教育を模索する私学では、個別学習と共同学習をつなぐグループ学習が大きなテーマになる。「進路指導」には2通りの進路決定プロセス・論理がある。第一は学力とのマッチングを主とし、第二は将来の可能性を探る発達論の方式である。6年一貫教育では保護者の発達可能性への期待が大きく個別の発達の仕組みを明確にする特色化が求められる。都内私立女子校の「28プロジェクト」はキャリア発達を特色化した成功例だ。進路指導は究極の個別対応の教育活動であるが、埼玉県立高校は学級担任と部活の顧問による進路指導チームが成果をあげる等、教員に共同の仕組みを取り入れると変わる。③生活指導については、発達論的な道徳教育に置換えて考え「習慣形成」「内面形成」「社会形成」の順に生活面の成長を捉える。何を重視し実行するのか掴めば活動の意味を明確な特色として伝え得る。

「生徒募集対策」は各校で状況の異なる個別の課題で、改革的な対応と改善的な対応に二分される。背水の陣で教員の意識改革に臨めるか等、改革的な対応は経営者の手腕次第だ。改善的な対応としては、百の改善事項を常に意識し改善に努める等、小さな積み重ねの結果が改革につながる。変える目的を明確化し改善を図ることが肝要だ。

学校の体質改革で進学率が大幅アップ、生徒のコミュニケーションスキル鍛えて就職率改善

—【私学経営・管理】【教員育成】【高校無償化】…松良 千廣 理事長・校長—

着任当初、本校には生徒は推薦でしか大学へ進まないとい決め込む教員が大半という大変甘い体質があった。このまま行けば潰れると確信し、職員室で闘いながらカリキュラムやプログラムの変更と教員の意識改革等を手がけてきた結果、当初40%程だった大学進学率は約90%へと変わって来た。外資系銀行の採用担当が前職の身としては、学校の就職指導方法に驚いた。例えば推薦1名のみでの求人票の場合、希望者の中から学業成績の最も優秀な生徒を推薦する。或いはとても成績優秀な生徒なのに会社の面接で次々落ちてしまう。採用側は命懸けで人を選別する以上は学業成績が優秀なだけでは採らない。本校は企業の人材ニーズや生徒の性格を考慮せずに成績順に生徒を推していた。日本はスピーチやディベートの授業のない数少ない先進国だ。そこで、大学のパフォーマンス学の授業に教師を送り込み企業が社員に求める能力1位のコミュニケーションを学ばせ、生徒たちにコミュニケーションスキルを1年間トレーニングして就職面接に備えたところ、就職試験の合格者が倍増した。程なく生徒指導担当から「推薦の仕方を大幅に変えて模擬面接を行いたい」との素晴らしい提案が出て来て、私からは模擬面接官を外部やPTA関係者に依頼するよう注文を付けるまでになった。生活指導面では、建学の精神「自由と芸術」から「自由」を前面に出し、校則で禁止理由不明や説明不可能なものは廃止し「他人の自由を妨害しない最低限のルールを守る」を唯一の約束事とした。怒鳴る指導は一切止めて語りかけるようにした。これらはかなり効果があった。教師の「常識」との闘いもあったが、平服の説明から電話対応まで丁寧に指導を重ねた。評価制度も取り入れた。PTA懇談会でクレームと要望を保護者から聞くことから始め、漸く「顧客のクレームは社の宝」とするビジネス界の「常識」が浸透してきた。校長室の目安箱に届く生徒の教師への要望を活かし、生徒による授業評価を始めた。管理職による評価を付加した給料査定を宣言したところ教師の約3割が辞表を出すこともあった。

高校無償化に関しては、日本の教育費の公費負担はOECD諸国で下から2番目の低レベルだ。高福祉のフィンランドでは私学を含め無償化が実現しているが、払った税金が自分たちに返るが故に高負担でも国民は不平を言わない。

海外に通用する人材育成 / 人柄、意欲、能力の順序で採用

—産業界の視点で語る…大山 健太郎・アイリスオーヤマ(株)社長—

本社は仙台にあるが日本全国及び海外にも支社等を有し「生活者に快適な事業形態」を展開する他に類をみない業態メーカーである。収納用品の生産・販売に限らず、金属、紙製品、ガーデニング用品、ペットフード、マスク、LED電球等まで幅広く開発・生産する。原材料から開発した透明プラスチックの「探す」「見える」収納用品で収納の常識を変えたと言われる。当社は「問題を発見し解決する」という形で商品提供に努め、日本の生活文化から世界へと発信している。少子高齢化社会で経済停滞もあって過当競争・価格競争とデフレ化が進む中で、当社の業績が良好なのは、既存の需要の喚起ではなく潜在的需要を掘り起こし創造するからだ。ユーザーインの視点で生活者の不満や不足に対する新たな提案によって市場を創造することが産業界の課題である。私学もいかに生徒のニーズに応じて表面的でない差別化を図るといふ視点へと転じる必要がある。今後は海外に通用する「人材育成」がより重視される。採用基準として次の順番で社員を採る。第一は「人柄」、第二に「意欲」、第三は「能力」だ。全国から様々な人が集まり組織で事業を行う以上、互いに組織内でコミュニケーションでき、信頼して仕事ができる仲間としての資格条件が1番だ。能力が3番なのは、テストのある学生時代は知識が重要でも企業では出来なければ知識は何の意味も持たないからだ。端的な例は「挨拶」だ。多種多様な人が集まりチームを作る場では見ず知らずの人に挨拶もできなければ、学業成績が優秀で、魅力的な人材であっても、チームにはマイナスとなる。人のポテンシャルは表情から読み取れる。学校では表情力豊かな生徒を育ててほしい。学校の「評価」はある意味「絶対評価」だが、企業の評価は他人が行い、顧客がNOなら零点だ。上司・同僚・部下による360度評価を行う。組織が目標を明確にして結果に対する公正な評価をすれば、人柄が良くて意欲ある人はぐんぐん成長する。



長瀬 篤夫・順天中学高校長



松良 千廣・常盤針学園理事長・校長



大山 健太郎・アイリスオーヤマ社長



鈴木 康之・水戸女子高校理事長・校長

パネリストと参加者との質疑応答－「企業の求めるコミュニケーション能力」「人事考課」「高校無償化の影響の見通し」

Q) 鈴木コーディネーター 「問題を解決し需要を創造する」ためのシステムを社内に組織しているのか。

A) 大山社長 新商品の提案はマーケティング部門が担当するが、商品開発に当たっては実際に自分で植物を植えてみる。或いはペットを飼ってみる。自分が欲しいものは顧客も欲しいという顧客目線に合わせることで生活者・消費者の代弁者としての開発が可能となる。当社は1万4千アイテムの商品を展開し、毎年1千アイテムの新商品を開発している。キーワードと明確なコンセプトがあればアイデアは次々と湧いてくるものだ。

Q) 参加者 企業が求めるコミュニケーション能力とその高め方、学校教育に求めるアイデアがあれば聞きたい。

A) 大山社長 リーダーシップ＝コミュニケーション能力に行き着く。要は「相手の言うことをしっかり聞き取る能力」「自分の言いたいことを相手にしっかり伝える能力」の2つだが、若者は後者の能力が落ちている。例えば自分の考えを相手に分かりやすく伝え相手の考えを咀嚼できるようディベートを学校教育に採り入れる。生徒との接点が多すぎる教員は生徒に好まれることが望まれる。社会で3年～5年キャリア経験を教員が積むのも有効だ。

Q) 参加者 若くして社長に就かれた経験を基に、人事考課策について助言を頂きたい。

A) 大山社長 社員平均年齢は32歳と若く景気に左右されず毎年コンスタントに採用する。働く社員にとって良い会社を目指して、労働時間の長短ではなく定時でこなす仕事の実績による実力、コミュニケーション能力等、本人・上司・同僚・部下を含めた360度の多面的評価を行う。各部門選出の人事評価委員会で等級別に評価順位を付け、ワースト10%にイエロー(気付き)カードを出して2年連続の場合はレッドカード＝降格となる。リストラ・解雇はしない。決算賞与は会社に報いる主任以上幹部社員の各業績に応じ等級不問で支給する。公正な評価で意欲があり頑張る社員は益々頑張るようになる。40～50代のベテラン社員が出向先の小会社で持ち味を発揮し貢献している。

Q) 鈴木コーディネーター 2年目となる高校無償化の来年度生徒募集への影響についての見通しはどうか。

A) 長塚校長 高校無償化による影響を整理すれば、第一に「公立は無料、私立は有料」という「絶対的格差」が生まれてしまったことが大きい。第二に「私立中高間の学費格差」－公私分担がしっかりした前提であれば私立高校の生徒収容は成り立つが、私立中学校への支援金はなく、中学校選択時に学費負担面で「公立中高一貫教育校へ」との気持ちの加速は否めない。故に私立中学校には従来以上の「絶対価値」が求められよう。第三は「地域・自治体間の格差」で、住む地域で軽減補助や加算額が異なってきた。これらを認識し来年度募集に臨むと共に、就学支援金について保護者と受験生等の理解を深め、私学の教育力＝公立との教育の中身の差を訴えていくことが重要だ。

A) 松良理事長 地方では元々授業料が安い公立志向が強く、宮城県では高校については余り大きな影響はないだろうが、就学支援金のない私立中学校への影響は避けられないだろう。

鈴木康之コーディネーターによるコメントと総括－政策転換期の私学の使命と役割とは？

「多くの先生と出会い語り合いリフレッシュ」「改革期に欠かせない中央や加盟校からの情報収集」「斬新なアイデアや情報を得る」ことを目的に研修会に参加するが、過去の産業界パネリストの提案や厳しい提言は今なお新鮮だ。公立高校無償化は周知されても私立高校就学支援金を知らない中学校も多く、就学支援金は生徒が私立高校に通いやすくなるビジネスチャンスになり得ると引き締めていくべきだ。特色教育については、一つ一つの実践が建学の精神とどう結びつくのか見える形にすることと教員の意識付けが大事だ。難しい環境下で私学経営が厳しさを増す中で自分を鼓舞する言葉－「天下は悪人によって滅びず、愚民によって滅びる」－が真実ならば、私学の使命は大きい。明日の日本をしっかりと支える人材を育成するのは私学ではないか。そのような私学の使命と志の再確認も本研修会の目的の一つではないか。「いつでも元気で明るくピチピチと喜びに溢れて生きる」－そんな私学人であり続けたい。各パネリストの貴重なご意見・ご提言に感謝申し上げパネル・ディスカッションを締め括りたい。



正木 毅・宮城県総務部私学文書課長



【教育懇談会】 仙台名物《すずめ踊り》



懇談・交流する参加者

6月4日(金)

【報告Ⅱ】

「私立学校のシンクタンクを目指して一日私教研の新たな挑戦―」 中川武夫所長が研修・研究事業改革への取り組みと中高連との連携について報告

研究所は5月に市ヶ谷・私学会館近くへ移転し便利になった。所長就任後は“研究所不要論”が浮上する中で活動内容の分析と改革に取り組み始めた。過去の研修会は発展性に欠け、中高連会員校へのサービスも不明確との反省から私学の喫緊の課題との連動を目指し組織改編に着手、事業の方向性を検討し年間活動基本方針を決定・統轄する研究・研修統括会議を立ち上げた。活動は研究部門と研修部門に大別される。①研究部門は、志望者から原色まで幅広い教員養成を軸に、私学教育ネットによる教育情報サービス、教員募集、採用後研修(初任者・10年経験者・実務者育成)等を担う。新たな実務者研修では、新学習指導要領と教育課程編成、評価と指導要録等をテーマに研究する。昨日中教審で川端文科大臣は教員免許状更新制を含む今後の教員資質向上方策の検討を中教審に諮問、中高連会長が私学代表委員となれば我々の思いを伝えていく。②研修部門について。私学経営研修会は内容を変更実施しており更なる充実を目指す。新設した私立学校専門研修会(教育制度部会、教育課程部会、国際教育研究部会、法人管理事務運営部会、次世代リーダー育成部会の5部会)は、中高連の活動内容と連動した研究を進める各専門委員会に中高連役員が参画し、研究者を客員研究員に迎え理論武装を図り、私学の意見をとりまとめ、文科省やマスコミ等へ発信し世間へ浸透させる私学のシンクタンクの要素を果たしたい。専門研修会で扱う問題を集約し全国私学教育研究会へ反映すべく来年度から連動させる。学習指導要領の対応では、教育課程の弾力化・大綱化を進めるべきだ。教育課程における児童・生徒の学習評価の問題では、小学校・中学校で義務化された観点別評価が現場で形骸化する事実を中教審で伝え「高校への導入は絶対反対」と主張した結果、見送られた。このように中教審・文科省に対して私学の意見をより前面に打ち出すには私学のシンクタンクの要素の活用が欠かせず、中高連の動きに手を携えていく。高校就学支援金では都道府県の対応に差が生じ、生徒募集では県境を挟んで摩擦が起きており、中高連としてどの方向で意見をまとめていくのか。公立教職員定数見直し、教科書電子化、高大接続等の問題では、公立との格差拡大や私学の生徒が不利益を被る火種が危惧される。研究所は諸課題に先頭に立ち取り組んでいく。

【全体会(意見交換会)】

2日にわたる研修会の総括として「政策転換期を拓く私学経営と教育」をテーマに
参加者が各地域の私学が抱える問題を提起、コメンテーターが参加者と論じ合う

【公立高校無償化・私立高校就学支援金】【私立中学校への就学支援】(兵庫県の質問)

司会(木内専門委員) 就学支援金制度の各都道府県の取扱い・データに関する質問にコメント願いたい。

實吉コメンテーター 授業料減免補助については、東京は都内生・都外生を問わず同一扱いだが、県外私学へ進む生徒を自県の減免補助対象外とするケース等自治体で扱いに差が生じている。県知事主導で私立中学校就学支援金の補正予算案が組まれた鳥取県の経緯を報告願いたい。

鳥取県 私立中学校も同じ義務教育学校との観点から就学支援金制度の風穴を開けたいとの県知事提案を私学は歓迎している。これには県立中高一貫教育校新設計画のある全県一区・官尊民卑の県で私立中高一貫校のダメージが危惧される背景もあるが、自ら望んで行く私立中学校への税金投入に県民からは反対の声も上がっている。

實吉コメンテーター 私立高校授業料無償化を目指すことが本年度中高連事業計画に盛り込まれた。授業料値上げを控えるべしとの文科省通知の背後には、十年かけて私立中学校授業料全額無償化へ向けた将来構想がある模様だ。

群馬県 就学支援金+ α で保護者の授業料負担を下げる措置は都道府県によって差が大きく、加えて各都道府県行政の制度運用上の解釈にばらつきが出ており、県境にある学校では非常に苦慮している。都道府県間の格差解消、並びに各自自治体の制度運用に関する情報収集と解釈統一を図るよう国に働きかけてほしい。

實吉コメンテーター 文科省通知の解釈は本来なら変わりようがない。東京都は私学主管部で申請書等の扱い等柔軟に対応頂いており、加算分書類は所得証明書等個人情報のため厳封扱いで学校を通過していく。加算書類の審査方法等は都道府県で異なるのではないか。大阪府の場合はどうか。

大阪府 加算分の申請書類は各私学で確認の上、府へ提出する。

司会 新制度開始まで期間が短く文科省・自治体共に混乱しており各行政の対応も今年はばらつく。東京は都私学財団に加算分申請書を審査委託している。都は学校への支援金支給時期を経営面の配慮から国の支給より早くする。

長塚コメンテーター 県境の学校には生徒がどちらの県に向かうのかは大きな問題だ。地方分権の流れの下で自治体間に差が出るのは避けられず、私学は良い意味での競争に努める必要がある。しかし、隣接都県の私学に行くからと自県に住む生徒を軽減補助の対象外とするのは正しい分権の姿ではなく正すべきだ。

【教育課程の弾力化】

茨城県 こういう子供を育てたいから、こういう教育をしようという各私学の特色を活かした教育を行う為にも、異なる教科・科目の合併・読み替え等、教育課程編成の更なる弾力化を文科省に要請してほしい。

實吉コメンテーター 未履修問題以降進められた教育課程編成の弾力化に関する文科省との中高連の折衝は頓挫し、教育課程の弾力化は学校教育法上の中高一貫教育校のみ認められ、中高一貫教育を作り上げた私立中高併設校の学習指導要領上の縛りは解かれていない。中学校芸術系科目の学年配当問題も文科省は教育課程特例校(特区研究)制度への乗換えを主張し話は中座した。教育課程編成における私学の自主性・独自性がどこまで認められるのかについては、国との折衝を粘り強く続けることが肝要だ。

鈴木コメンテーター 未履修問題以降、本県行政の私学への縛りが非常に厳しくなった。我々は単独の学校ではなく県私学協会として研究に取り組み、行政へ要望していく形をとらなければ実現は難しいのではないかと。

【学校活性化方策：教員研修、授業評価、教員評価】(熊本県の質問)

松良コメンテーター 8年前に始めた授業評価による教員評価では、授業向上のヒントを生徒の要望から得て、魅力ある授業のため7項目をチェックし、年2回の授業評価で1回目は課題を発見し2回目では修正できたか総合評価

した結果を給与(基本給・賞与)に反映している。総合評価2割、分掌長・学年主任・教科主任・管理職による評価を各2割とし、目標設定、改善努力等を見る。授業改善は自己評価・自己反省だけでは上手くいかず、管理職と教科主任が授業参観等での確に見るべきだ。研究授業をビデオ撮影し自分の授業を客観的に見る方法を昨年迄とった。**鈴木コメンテーター** 新任研修の基本的視点として、最近の新任教員は生徒の言動や表情を読み取り先手を打つ「気持ち」の面が弱く、本校では新任教員が自己評価、実行したこと、実行しようとする、感想等を日報に書き、校長がコメントを付ける教員の再教育を毎日重ねることで研修に代えている。

長塚コメンテーター 公立は授業評価・教員評価等徹底した学校マネジメントを実施して教員の意識を確実に高めている。全国の私学でも8割が授業評価を行っている。評価を受けることに教員は皆不安と抵抗感を持つだろうが、教員間で互いの評価がわかるよう評価結果をオープンにすることが大事だ。生徒による評価を掲示・公開する都立高校は自動的に人事考課・人事異動を可能とした。生徒募集においては、生徒と教員の間にある授業の中身＝シラバスが大切と考え、本校では600頁のシラバスを毎年変えている。到達度を生徒に理解させることを重視する。新任教員研修については、小規模校では組織立ても時間確保も難しい。そこで当初2年間で本校の方向性を確認・徹底させている。教員資質向上策としては、教員は採用後1~2年学校現場で鍛えるのが一番現実的だ。フィンランドの教員は修士卒で教科担任は500時間、学級担任は300時間の教育実習が課される。授業の質の向上も重要である。

【地方の小規模校の生徒募集と生き残り策】(福島県の質問)

鈴木コメンテーター 小規模校の本校は生徒数減を機に次の意識をもって対応している。①教育の中身の側面としては、学校の理念を掲げて校長・教員・職員まで全員が生徒を分かり育んでいるとの共通理解を持つことだ。生徒・保護者がこの学校はここまでやってくれるのかと感動し、この学校に行けば良いことがあると思って貰う。理念の浸透は大規模校よりスムーズで、少ない生徒数だからこそ一人も例外は作らないように進めやすい。②生徒募集の側面では、アレルギーを恐れず、この厳しい学校が嫌なら外へどうぞという気持ちで臨むことだ。トップセールも重視している。校長自ら中学校や塾へ足を運び、毎週土曜のオープンスクールで校内を案内し「この学校の娘たちを見て共感される方はお入り下さい」ということだ。昨年は来訪者の子女の2/3が入学された。生徒・保護者は成果・結果よりも本校の取り組む姿勢に共感し、校長と現場の教員が言うことが同じだと安心しているようだ。

【大学入試・高大接続テスト】

司会 大学入試関連で「高大接続テスト(仮称)」に関する調査研究の清水哲雄委員より審議の動きを報告する。**清水哲雄・中高連常任理事** 2009年秋から2年間で文科省委託事業として佐々木隆生北海道大学教授を代表に調査研究・協議を進める「高大接続テスト(仮称)」経過報告が先般出され9月に最終報告がまとめられる。2007年大学全入時代を迎えAO入試等選抜試験を伴わない入試が昨年度50%近くに増え、大学入試の選抜機能低下等で高大接続は制度疲労を起こした。生徒の学習のモチベーションを上げるのではなく、教育内容を豊かにすることで生徒に大学で勉強したいと思わせるのが21世紀の教育であり、それが私学の使命ではないか。高大接続テストは今後、教育課程・大学改善等とリンクさせて扱うべき課題と言えよう。

司会 数年先にこの問題に関連して私学への影響が起こる可能性もあり、今後の情報に注目されたい。

*この他「学校完全週5日制の週6日制への戻り傾向(公私立)」(鳥取県の質問)等に関する質疑が行われた。



報告Ⅱ (中川武夫・日私教研所長)



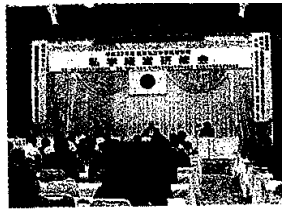
全体会(意見交換会)



「政策転換期を拓(ひらく)く私学経営と教育」をテーマに、講演や運動内容報告が行われた。吉田晋日本私立中学高等学校連合会会長は、本年度から実施された高校授業

平成22年度 全国私立中学高等学校 私立学経営研修会

仙台で研修会
私学経営の安定へ
管理職ら意見交換



全国私立中高私学経営研修会(日本私学教育研究所主催)が3、4の両日、仙台市宮城野区の仙台ガーデンパレスで開かれ、私立中高の理事長ら管理職約150人が意見交換した。

私学経営について意見を交換した研修会
料無償化について「私立高生には依然有償部分も多く残り、公立との格差がある」と国や自治体に改善を求めた。
パネル討論では、アイリスオーヤマ(仙台市)の大山健太郎社長が「私学経営にも需要創造と消費者(保護者)の要望を取り入れることが大切、常盤木学園高(仙台市)の松長千広校長は「生徒の自立のためには保護者とのチームワークが欠かせないと意見を述べた。」

《河北新報》

私学経営研修会 参加者数

都道府県		参加者数	都道府県		参加者数
1	北海道	6	25	滋賀	3
2	青森	2	26	京都	4
3	岩手	-	27	大阪	9
4	宮城	13	28	兵庫	5
5	秋田	1	29	奈良	2
6	山形	3	30	和歌山	-
7	福島	4	31	鳥取	1
8	新潟	3	32	島根	2
9	茨城	3	33	岡山	-
10	栃木	-	34	広島	8
11	群馬	4	35	山口	-
12	埼玉	1	36	徳島	-
13	千葉	5	37	香川	2
14	神奈川	6	38	愛媛	-
15	東京	29	39	高知	1
16	富山	-	40	福岡	6
17	石川	1	41	佐賀	2
18	福井	-	42	長崎	-
19	山梨	-	43	熊本	1
20	長野	-	44	大分	-
21	岐阜	1	45	宮崎	-
22	静岡	7	46	鹿児島	-
23	愛知	3	47	沖縄	1
24	三重	4			
参加都道府県		32	参加者合計		143

参加者アンケート結果【概要】

A. 研修会総括用 ◇回答対象者／参加者総数 142名／143名(当日欠席1名) ◇回答者数・回答率 50名・35.2%

問1 本研修会への参加目的

1. 私学・教育に係る中央最新情報収集	30名	4. 他校関係者との交流・情報交換	14名
2. 学校経営管理の参考事例収集	17名	5. 自己研鑽・知見拡大	9名
3. 所属校改革・発展	17名	(複数回答)	

- 政策転換期における今後の私学情勢を知り、対応策を練り上げるため
- 最新中央情報共有（高校就学支援金・私学助成政策の動きや方向性は私学経営への影響大）
- 地方には情報が流れ難いため（高校無償化等の具体的動向等）○私学助成が適切か？学費（授業料）減免助成が公平か？
- 高校就学支援金についての他府県の対応や状況・生徒募集に関するアイデアを聞くため
- 今後の教員養成課程の制度改革の方向性、教員免許更新制の対応を知るため
- 教師集団のレベルアップ、意識の向上をいかに図るか、情報・参考事例収集
- 「教員の意識改革」推進のためのヒントが得るため
- 政府の教育政策の早急な情報収集（「高校無償化」「学区見直し」「教員配置数」「35人学級」等）
- 自校改革・問題点解決のヒントを得るため。他校訪問等のためのネットワークづくり
- 今後の私学経営の勝ち組となる策を考え、他校例を改善点の参考に聞くため
- 生徒募集に向けて改善点を他校から学びたい ○他校の素晴らしい取り組みを聞き、自校で実践するため
- 少子化の中で生徒募集をどうすべきか（私学の特色があれば生徒は入学するか？地方は景気悪化等で難しい）
- 学校経営の基本は生徒確保、その為に「在校生にどう関わるか？」。その中核は「授業」、どんな生徒に来てほしいか考える前に、質的向上を図る為には教師のスキルアップが必要条件
- 管理職の自己研鑽を通し、「川上濁れば川下濁る」という学校にしないため ○あらゆることを吸収したい

問2. 本研修会への内容について

(複数回答)

プログラム	基調講演	中高連講演報告	パネル・ディスカッション	教育懇談会	日私教研報告	全体会(意見交換会)	研究のねらい全体・その他
満足	35名	25名	26名	11名	24名	28名	12名
やや満足	70.0%	50.0%	52.0%	22.0%	48.0%	56.0%	24.0%

～参加者から寄せられた声～ (アンケートより抜粋)

《全般》

- 全プログラムに大変満足、民間人の話に勇気づけられた ○大変良い企画・計画だった ○内容が一段と充実し資料が良かった
- プログラム構成も良く、教育の質・内容についてヒントを多く得られた ○大変有意義な密度の濃い豊かな研修だった
- 地方で聞けない中央の動きが参考・刺激になり、多くの示唆を受けた

《基調講演/報告/パネル・ディスカッション/意見交換会》

- 実践例が多く、非常に分かりやすく、勉強になった ○参考になり自己研鑽・知見拡大に繋がった
- 他分野で活躍の方の話、著書等、登山口は異なっても目指す頂は同じと再認識した

《基調講演》

- 文句なしに感銘を受けた ○感動した ○大変感銘を受け心に残った ○いつも前向きに生きることの大切さを改めて見直した
- 地元の学識者の教育観が紹介され含蓄ある話がためになった ○講師の人間性に触れ満足した。

《講演/報告》

- 私学経営に密に関係する中央の政治折衝の話を知ることが有益であった ○国レベルのリアルな動きがよく分かった
- 私学の代表者達に教えられた。「私学は1校1校が大事」「物言う私学」の姿勢を今後も望む
- 文科省役人と私学関係者との温度差に驚いた。今後も私学の声を届けてほしい
- 充実した資料で、膨大な内容をコンパクトにまとめ、重要な項目の課題、方向性の理解に役立った
- 主張が明確、かつパワーポイント活用で大変分かりやすく今後多くの報告で取り入れてほしい
- 新しい方向(私学の主張)をつくる期待が大きい

- 資料を追うのが大変で内容・量共に理解が難しい所があった ●早口でメモする暇がなく、もう少しゆっくり話してほしい
- 内容・資料が一部重複していた

《パネル・ディスカッション》

- 構成も大変良く教育の質・内容についてヒントを多く得られた
- 個別の学校対応が聞けた ○パネルの提起はそれぞれ刺激的だった ○率直な内容・意見が出て参考になった
- 現状分析と課題、具体的取り組みについて良く理解でき、情報として持ち帰ることができる
- 企業代表の人生観、社員育成、組織福利の話が興味深かった ○民間人の話に勇気づけられた
- 実業界の話が新鮮であった ○企業における教育観が非常に参考になった
- 松良先生の学校改革・改善の体験談が興味深く満足した。教員の意識改革推進にあたり大変参考になった
- 長塚先生の「個別化」「共同化」への対応が良かった ○鈴木先生の姿勢に自己の未熟さを実感
- 企業でできることと学校という場での制約についてのヒントにもう少し踏み込んで貰えればなお良かった
- ディスカッションしてほしい ●論点が不明確である

《意見交換会》

- 参考点が多く大変良い企画だった ○現場の声を反映しながらのディスカッションでとても参考になった
- 各学校の抱える現状が少し明らかになり参考となった ○時間が短い位に意見が出て良かった
- フロアとの関連を持つ運営で独自の意見も出て満足したイベントとなった ○現場につながる研修だった

《研究のねらい/パネル・ディスカッション/意見交換会/報告》

- 【5つの視点】に関する報告だったため個々の内容が浅く感じた ●少し内容を絞った方がより深い内容の研修になる
- 報告・ディスカッション等はもう少し方向性が見えるものを望みたい
- 「講演形式ではない研修」を生み出す時間が重複事項の事前調整によってとれる

問3. 来年度以降の本研修会等への要望等

☆実践校・事例報告・学校視察等

- 「学校改革」の実践例を取り上げてほしい ○「経営管理」の他校例が多くあると良い
- 私学としての特色教育の事例発表(開催地、それ以外の学校でも可)があると良い
- 先進的な取り組みの実践校(最先端を行く2校程度)を紹介してほしい(視察の機会が少ないため)
- 特色ある私学の教育内容・学校改革事例等の報告、パネル・ディスカッション、意見交換会を希望する
- 学校現場での生徒のコミュニケーション能力を高める実践校について

☆研究テーマ

- 「時代を見据えた私学教育」… 特長ある教育づくり、公立の動向・情勢把握、教員研修
- “私学らしさ”をどう捉え、どう深めるかが、「私学・冬の時代」を生き延びる上で最も本質的な問題

☆公立学校、対公立

- 私立・公立学校の役割（責任） ○地方における公立対策・公立高校無償化対策（首都圏と地方では温度差大）

☆教員育成

- 教師力の弱い先生のレベルアップ（教員評価制度導入） ○人事評価の実践例（給与への反映方策）

☆パネル・ディスカッション

- 文部科学委員会議員をパネリストに呼んでほしい。

☆中央情勢報告

- 高校無償化と高校就学支援金の現状と課題、対策について
- 私学・教育に関する中央最新情報をいまいし詳しく、ゆっくり時間をとって説明してほしい（中高連報告を一つにまとめる）

☆会議等

- 初日座席は指定席の方が良い（初見の人へアプローチしやすい）

☆教育懇談会

- 交流のための時間がやや少ない ●もっと多くの人と交流したい ●地元の学校を紹介しても良い
- 一つに固まっている様に感じた。広い参加者との交流まで広がらない ●必要性が疑問
- エンカウンター的なプログラムを導入する（より多くの学校の先生方と話す機会が得られる）
- テーブル毎にグループを作り協議結果を発表することで、多くの学校の先生方と濃密に交流・情報交換する。

☆日私教研への要望等

- 日私教研の方向に賛成、是非現場に役立つ内容を望む

☆中高連への要望等

- 県私学協会としての行政当局との対応の方法 ○県私学協会の広報のあり方
- 大阪の動き（就学支援金制度・私学助成・公私立教育）を知りたい。中高連=私学全体としてのもの言う必要もあるのではないか。

B. 意見交換会用 ◇回答対象者数/参加者総数 142名/143名(当日欠席1名) ◇回答者数・回答率 45名・31.4%

問1 第1日実施プログラムの感想(参考になった点、講師・報告者・パネリストへの質問等)

☆講演

- 国の教育政策の経緯・他府県の状況を改めて知り、私学の環境への配慮に欠ける実態を痛感
- 就学支援金制度の推移、今後の私学が要望すべき内容、現状の問題点等 ○高校無償化法が杜撰で改善の余地がある
- 公立高校無償化、私立高校就学支援金と都道府県格差 ○就学支援金等の政府の甘さ、認識の相違、諸経緯
- 政策転換が私学に不利益を与える兆し ○「教育は国家の大計なり」にもかかわらず余りに稚拙で場当たりのこと
- 政権交代に見る政策のオーバーラン・混乱、教育等安易に変えにくい分野を変える政権の矛盾や私学の被害
- 私学助成の現状と新たな動き ○政府、文科省への私学からの声か如何に届けられるか
- 公私間格差是正運動に私学教職員がもっと関心を持つべきとの意識付けが必要である。私学の使命が明確になれば、教職員のモチベーションも上がる

☆報告I

- 中高連からの様々な提言・要請、活動があって我々地方の私学現場が助けられていること ○全国組織の役割の重要性を再認識
- 就学支援金の地域格差の実態を知り、当該地区の県への働きかけを推進したい
- 教員免許更新制度創設時と同様、高校無償化は性急な制度改革で不明な点が多く、学校現場が落ち着いて教育活動ができなくなる
ことがあってはならない
- 私立高校として第三者評価に対する考慮の度合い。生徒・保護者が学校を選ぶことが私学の評価とみなせること
- 学校評価において私学は学校選択段階で様々な評価を常に受けていると盛り込まれたことへの中高連の努力に感謝したい
- 高大接続WG（調査研究）の見解は正しくても、どの様に対処していくのか展望が良く見えず、今後が不安である

☆パネル・ディスカッション

- 長塚先生の「個別化」と「共同化」の見方に多々共鳴点。私学の特色を打ち出すため「教員の共同化」が早急に必要と痛感した
- 長塚先生の「公立中高一貫教育校と私学との競合～募集のあり方」
- 松良先生の「教員の意識改革」「学校改革」 ○松良先生の生活指導、教師の常識、評価制度
- 松良先生の建学の精神に立ち返った「生徒指導」の見直し ○松良先生の「自立に向かうプロセス」
- 大山社長の商品開発におけるユーザー視点の導入、人材育成における「表情力」 ○大山社長の「社員教育」
- 大山社長の話から得た学校運営のヒント ○大山社長の「求める人材」、企業における「人材育成」「人物評価の基準」
- コミュニケーション能力の大切さを再認識。大山社長の「言葉は意志、表情は心」が印象的 ○学校経営・企業経営に共通の問題
- コーディネーター、パネリストの話から得た向上のヒント ○パネリストの腹を割った話に活力を得た
- 政策転換期に直面する私学としての経営だけでなく教育内容の本質的な点を再確認した

問2 【研究のねらい】の【私学教育を考察するための5つの視点】のうち、最重要の視点(課題)と理由・事例・意見等

1. 教員育成	22名	4. 学校経営管理	2名
2. 特色教育	11名	5. 高校無償化	1名
2. 生徒募集	11名	(複数回答)	

1. 教員育成

- 教員の意識改革が行われれば、学校は良い方向に変わる
- 「現職教員の意識改革」の手順を学びたい
- 教員は教育環境における最大の要因である。一人一人のスキルアップと同様に、困難・試練を乗り越え得る教師集団としてのまとまりが今後望まれる
- 「教育は人」、教職員が建学の精神を共有して生徒を育ててほしい。教職員が良いコミュニティを構成する時、生徒も育つ
- 人を育てるのは人にしかできない、従って教員は「学校の宝」である
- 教職という衣をまとっていても中身の人格が伴わなければ教員とはなれない。この人格形成の努力なしには秀でたシステム、組織強化は難しい
- 研修会等はあるものの、人事異動がなく、外の世界への関心度が低い
- 教員育成が本校の課題である
- 教員の教育が大切であり、研修が必要だ
- 教員養成課程の期間延長は、私学の教員確保に困難をもたらす
- 教員育成以前の問題として、採用の難しい教科(理数系)が出て来て質を問えないのが実態である。
非常勤の時間講師の確保は非常に困難な方向

2. 特色教育

- 教員育成が本校の課題
- 私学として存在していく上で何をアピールしていくか。生徒募集にしても特色を明確に打ち出し、卒業時により具体的な成果を示せなければ、結局は生き残れない。
- 同じ様な普通科高校が増える中で私学としての存在感を出して行きたい
- 特色教育づくりが、正に私学の存在意義を問うものになる
- 企業的発想で言えば、商品開発のアイデアと品質保持
- 学力によって大凡の位置づけが決まる中、学力の枠を超え特色を求める生徒をどのように増やしていくべきか考える必要がある
- 私学教育の方法が公立の参考にされているが、教員意欲の点では現状は私学の方が優れている。今後は教育課程が勝負になる。
私学独自の教育課程の実践を国に認可させる取り組みを展開する必要がある
- 意外と自校の特色には気付かないもので、実践している特色教育を「見える」ようにすることが大切だと気付いた
- 教育内容の充実こそが学校の最重要課題。魅力ある学校づくりに苦慮している
- 私学に子どもを入学させる保護者の気持ちを考えれば、「お金を出す」=「何かの能力が身につく」ことである

2. 生徒募集

- 公立高校無償化による生徒募集の困難さ(学力の高い生徒及び専願生徒の確保の困難)
- 公立高校無償化に伴いどの程度の影響があるのか不明な点が多く悩ましい
- 中学受験者数が近年全く伸びない
- 生徒が減少すれば、納付金・補助金の減少だけでなく、スポーツ・文化活動等の鈍化等、影響は大きい。
特色ある教育活動を行うことで、減少を食い止めた
- 保護者を受験生保護者に育てていくことが求められる。私学が一同に市場改革を進めるべきだ
- 地方の中高一貫教育校の中学校生徒募集方法の工夫

4. 学校経営管理

- 全体を含むため

5. 高校無償化

- 教育に公金をかけない国に未来はない

問3 学校が直面する喫緊の課題と選択理由・事例等【研究のねらい】の【私学教育を考察するための5つの視点】のうち、最重要の視点(課題)と選択理由・事例・意見等

1	生徒募集	13名	5	私学助成	3名	8	大学入試	1名
2	私学経営	11名	5	学校評価	3名	8	高大接続	1名
3	教員育成	7名	7	教育課程	2名	8	教員確保	1名
4	特色教育	6名						(複数回答)

1. 生徒募集

- 入試定員割れ/生徒募集(定員割れ)対策で良い知恵を聞きたい
- 中学校の生徒募集(学校改革)が大きな課題(中高一貫教育校の影響等)
- 学校の特色、実績、教育活動が中々生徒募集に直結しない
- 各県私学協会等で就学支援金を積極的にPRする事業があると良い
- 全てがリンクされ、学校の不具合が現れる所である

2. 私学経営

- 生徒募集の困難さが経営を圧迫し、ブランド力強化施策に苦慮している
- 生徒を将来的に困らせない教育を実施できる学校であるためにも、政治の動きを読み取る色々な観点を学びたい
- 教職員にやる気を起こさせる方法、処遇、評価、職場環境、人間関係
- 教職員の働き甲斐、生き甲斐、充実した人生を過ごして貰いたい
- 施設・設備投資

3. 教員育成

- 教員の意識改革が思うように進まないため
- 人を育成する教員の人間力を高めたい
- 「教員の力」が、生徒の輝き(力)、学校の力である

4. 特色教育

- 生徒募集において公立無償化の影響は予想以上に大きく、魅力的な教育づくりは最重要テーマ
- 高校入試で合格ボーダーラインが輪切り化され、生徒募集面で質・量共に厳しい(私学間)
- 公立志向の強い地方は公立高校が私立同様の特色化を打ち出し一歩リードできる学校ブランディングが困難(公私間)

5. 私学助成

- 都道府県による助成方針がバラバラで、同じ私学なのに住所地によって助成のされ方が異なる
- 今後の私学助成のあり方の方向付けへの関心

6. 学校評価

- 私学に適切な学校評価の導入への関心
- 生徒・保護者・地域の声・ニーズに応え、建学の精神・教育理念に基づき対応するための情報源として「学校評価」にどう取り組み、学校現場に活用するのかが課題である
- 学校評価の具体的取組みと情報共有後の教育現場での具体的対応
- 目標管理や各部署で目標ブレイクの困難さを克服したい。単純にPDCAサイクルへの落とし込みは難しい

7. 教育課程

- 学習指導要領改訂に伴う教育課程編成

8. 大学入試

- 大学進学実績による私立中高校のヒエラルキーが別の要因で(進学実績以外の特色によって)変化している例を知りたい

9. 高大接続

- 大学併設校として、高大連携接続教育の具現化は最重要課題。内部進学者に対する基礎学力の強化は大学教員と高校教員の意識・認識の差が大きく、このギャップを如何に埋めていくかが課題

10. 教員確保

- 理数系学科の教員確保に苦勞しており、団塊世代の大量退職期と併せ考えれば、教職課程4年+αの期間が長くなれば教員の確保が一層困難になる。現行の教員免許制度を当面続ける方が現場の混乱を避けられるという意味でも、文科省に対し見直しにあたり慎重な取り組みを中高連から申し入れてほしい